



公立大学法人
山口県立大学
Yamaguchi Prefectural University

県大生の

한국 ジャーナル

韓国ジャーナル

No.5
2010年2月

【編集責任者】小野華奈、垣下友希、畑野友里恵、佐志原彩華、杉野由可子、原田有紀子、森田幸枝、山田雄太
【発行責任者】林 炫情（国際文化学部 国際文化学科 准教授）
【支 援】公立大学法人 山口県立大学 文部科学省 現代GP 2009年度支援事業〈地域の活性化〉
〒753-8502 山口県山口市桜島3丁目2-1

日本人と韓国人の想いが つなぐメロディー

田村洋先生の創作活動のなかでの韓国との繋がりについてお話を伺いました。

1. まずは自己紹介をお願いします。

田:私は「作曲家」ですが、自分自身をスーパーマーケットのような存在だと思っています。私は、クラシック音楽だけではなく、国内外のコンサートや放送音楽、演劇や舞台音楽、CD作製など様々な分野の曲を書いています。そんなところがスーパーマーケットに似ていると思います。現在は、山下清さんの生涯を基にした演劇「裸の大將放浪記」が全国公演されています。私はその音楽を依頼され、曲を作っています。

2. 普段はどのような研究をされているのですか？

田:私の場合、「研究」というより「創作」と捉えてもらった方がいいですね。曲を作るのはもちろんですが、詩人の詩に作曲し、全国で発表しています。山口出身の詩人では、金子みすゞさんや中原中也さんが挙げられます。作曲する際には、詩人が伝えたいイメージからかけ離れないように、そして曲を通して、より皆さんに伝わるように気をつけています。作曲した幾つかは、音楽の教科書に選定され、多くの子供たちや合唱団の方々に歌ってもらったり、とてもうれしいですね。

3. 日韓の音楽について先生はどのようにお考えですか？

田:昔、日本は大陸（中国や韓国など）から文化・宗教など多くのものを学びました。音楽も同じで、日本の音楽は少なからず韓国から影響を受けています。現在、どこか同じ雰囲気のある音楽を両国民が好み、熱狂的な韓国音楽ファンが日本に大勢いることも理解

できますね。また両国では、ポップより情緒的な音楽が好まれていると私は思います。ドラマでもそうですが、メロディー要素が含まれているものより、なぜか悲劇的要素が含まれているものの方が人気がありますよね。そういう点でも似ていると思います。

4. 田村先生の作品の中に『慶尚南道』という曲がありますが、曲が出来上がるまでの経緯は、どのようなものでしたか？また、曲の内容はどのようなものですか？

田:私は自分の内面を「音」で表現する人ですから、曲の内容をすべて言葉で表現するのは難しいですね…。『慶尚南道』は、私が韓国の慶尚南道を訪れた時に出来たもので、その場所で見た風景や感じた空気を「音」で表したのです。例えば、慶尚南道を感じた時に自分の内面から湧いてくる音、それに加え、「さわやかな音」・「豊かな土地」などを表現する音がいくつも重なり、曲になったのです。なので、言語で表現できる部分とそうでない部分があります。それゆえ、曲の内容をすべて言葉で表すのは難しいのです。解釈はお任せします。

5. これから日本と韓国がより良い関係を維持していくためには、どのようなことが必要だと考えていらっしゃいますか？

田:固く構えずに、互いに理解しようとする姿勢が必要だと考えています。しかし、素直な気持ちで互いを理解し合うということは、なかなか出来そうで出来ない。「アリラン」の歌のように歴史という峠をいくつも越えなければ到達でき



ないのかもしれませんが。でも今は、K-popやJ-popが互いの国で人気がありますし、まずはお互いについて興味や関心を持つことが大切だと思っています。

6. 先生は山口国体2011のプロデューサーをなさっているようですが、何か韓国との繋がりや考えていらっしゃることはありますか？

田:まだ実現できるかどうかはわかりませんが、在韓の方々を50~100人程度国体に招待したいと思っています。「日本にいる人たちと韓国から来た人たちが、一緒になって盛り上げていく」国体にしたいと考えています。山口県と友好提携を結んでいる慶尚南道の方だけではなく、他の地域からも多くの人を招きたいですね。また、今回の山口国体のマスコットである“ちよるる”は、人や自然から溢れるエネルギーをキャッチするアンテナを表現しています。なので、日本の人たちと韓国の人たちが想いを繋げて、魅力溢れるエネルギーを寄せられたらいいですね。

(畑野・山田)

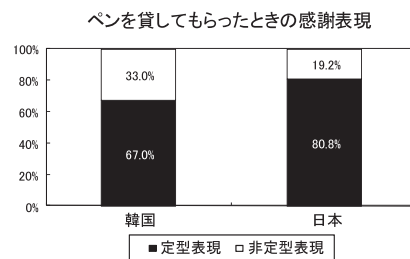


データで見る韓国

右の図は、日本人と韓国人が「ペンを貸してもらったとき」に、どのような感謝表現を使用するのかを表したグラフです。

ここでの定型表現とは「ありがとう」や「고맙워. (ありがとう)」のように、ある場面において使用する決まった表現を指し、非定型表現とは、「助かるよ。」や「또 빌려줘. (また貸してね。)」のように、相手や場面に応じて使用される表現のことを指します。

小野(2010)の調査によると、ペンを貸してもらったとき、日本人は主に、「ありがとう」という定型表現を多く使用します。これに対し韓国人は、感謝表現である「고맙워. (ありがとう)」以外にも「역시 있을 줄 알았어. (やっぱり持っていると思ったよ。)」や「밥 사줄게. (ご飯おごるよ。)」など、バラエティ豊かな表現を、場面や相手に合わせて使用していることが分かりました。また、相手との親疎関係の観点から感謝表現の使用をみると、非定型表現については、両言語ともに、親しい相手に対して使用する傾向が強いです。一方、定型表現に関しては、日本人は、親しいか親しくないかに関係なく「ありがとう」という表現を最も使用する傾向にあります。韓国人は「고맙워.」を親しい相手よりは親しくない相手に対してより多用するようです。韓国人にとって、親しい相手に対して定型表現、つまりかじこまった表現は逆に距離を感じさせるのかもしれませんがね。(小野)



出典:小野華奈(2010)
『日韓両言語の感謝表現に関する対照研究』
山口県立大学・国際文化学部2009年度卒業論文

知っ得!人生の記念日

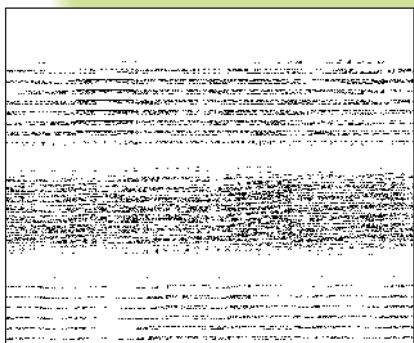
日本にはお食い初めやお宮参り、七五三、還暦、喜寿などを祝う習慣があります。では韓国の人生の記念日にはどんなお祝いをするのでしょうか?

韓国の人々は、誕生日の朝食にわかめスープと赤飯を食べます。わかめには血液をさらさらにしたり、止血作用の効果があるため、昔から出産した産婦はわかめスープを食べました。そのため誕生日の朝食には、産婦食で知られているこのわかめスープを食べながら、産んでくれた親に感謝をします。昼食には麺料理を食べたりもしますが、麺には「長生きをするように」という意味が込められているようです。家族と友達が集まって誕生日を祝うサプライズパーティーを開いたりもします。

人生の中で特に重要とされる記念日は「백일 (百日)」です。昔は、伝染病が多かったため、赤ん坊が病気にかからず健康に百日を迎えたことは祝うべきことでした。そして1年が経ち、初めて迎える誕生日を「돌 (満1歳になる日)」といいます。「백일 (百日)」と「돌 (満1歳になる日)」にはたくさんのご馳走が並び、親戚とともにその日をお祝いします。特に「돌 잔치 (満1歳の宴)」のお祝いの膳には料理以外にもお金、鉛筆、本、鏡、マイクのようなものを乗せて置き、子どもがどれを掴むかによってその子どもの将来を占ったりもします。

また、60歳には「환갑 잔치 (還暦宴)」、70歳には「희수 잔치 (喜寿宴)」を開き、誕生日をお祝いします。「환갑 잔치 (還暦宴)」や「희수 잔치 (喜寿宴)」には成長した子どもたちが一堂に集まり、両親が健康で長生きすることを祈ります。このとき両親に感謝し、旅行をプレゼントしたりもします。

新しい命を祝ったり、両親に感謝しお祝いをする気持ちは、やはり日韓ともに同じですね。(原田)



出典:曹美庚・林炫情・全眞(2010) 『韓国文化を読む』朝日出版P23より

わたしが見た韓国!! ~告白表現の日韓比較~

韓国の映画やドラマを観ていると、「사랑해 (愛してる)」という言葉をよく耳にしませんか?日本人は「愛してる」なんて、照れくさくてあまり口にしませんよね。この他にも、日本と韓国では、恋愛表現に違いがあるようです。今回は日韓の告白表現についてご紹介します!

日韓の告白表現に関する調査(垣下, 2010)によると、日本人は「好きです。付き合ってください。」のような、余計なことを言わないシンプルな告白が効果的ということがわかりました。でも韓国人は、「気がつけばいつも〇〇さん(君)のことを考えている(の)。付き合ってください。」や「〇〇さん(君)の好きなことを好きになるようにがんばるから、付き合ってください。」のような、告白者が被告白者のことを、どれだけ想っているかを具体的に伝える告白が効果的という結果が表れたのです。つまり、効果的な告白に重要な要素とは、日本人の場合、「いかに被告白者に負担を感じさせずに、告白者の気持ちを伝えられるかどうか」だといえますが、韓国人の場合は、「いかに被告白者に対する強い気持ちを明確に伝え、被告白者を納得させられるか」だといえます。

一般的に、日韓のコミュニケーション・スタイルは、「日本人は相手を気遣い、控えめな表現をする」、「韓国人は物事ははっきりとストレートに表現する」といわれますが、それは恋愛表現においても同様のようです。(垣下)

出典:垣下友希(2010)
『日本人と韓国人のコミュニケーションスタイルに関する対照研究:告白表現』
山口県立大学・国際文化学部
2009年度卒業論文



韓国文化発見 スタディーツアー

(2009.8.17~8.20)

韓国語学研究室では8月17日~20日の3泊4日で韓国へスタディーツアーに行ってきました。今回は現地でカルチュラルスタディーズの実践“韓国人の日常生活空間で韓国文化を発見する”試みを行いました。地下鉄、空港、チムシルバン(サウナ部屋)、コンビニ、トイレという日常的な空間から韓国人の暮らしと文化を多面的に探究しました。

このスタディーツアーでは、自分の韓国語学力を試す良い機会になったとともに、韓国の方々との交流を通して人々の考え方の変化や日韓の文化の共通点や相異点を改めて知ることができました。

(杉野)



学園祭交流

(2009.11.7~11.8)

本学の文化祭に、韓国の姉妹校である慶南大学校のマジックサークルの学生9名が訪れ、公演をしました。公演は、とてもユニークで大変盛り上がりました。その他、文化祭を一緒に見て回ったり、山口市内にある雪舟庭や瑠璃光寺五重塔を観光案内したり、足湯の体験をするなど、日本の文化を紹介することができたと思います。2日間はとても短い時間でしたが、韓国語や日本語、ボディランゲージを使ってさまざまな交流ができました。お互いに話そう、理解しようとする姿勢があればコミュニケーションがとれるということを知ることができました。(原田)



韓国の歴史に触れた スタディーツアー

(2009.11.13~11.15)

韓国社会論研究室の学生は、やまぐち韓国研究会の方、現地で留学生と韓国の学生とも合流し、総勢18人で韓国へスタディーツアーに行ってきました。

今回のスタディーツアーは「歴史」をテーマに、戦争記念館、板門店、景福宮、中央博物館などを見学しました。このスタディーツアーを通して、韓国の歴史や文化に触れることが出来たと思います。特に板門店では、申請書無しでは入れず、誓約書にサインしなければならないなど物々しい警備で、ただならぬ緊張感がありました。今も停戦状態の現状を感じ、改めて韓国という国について考えさせられました。(藤岡)



スピーチコンテスト



韓国語コースでは、韓国語による様々なスピーチコンテストに参加しています。今年度は、「第2回やまぐち韓国語・日本語弁論大会」において、3年生の仲宗根さんが優秀賞、2年生の井出・戸澤・小倉・酒井・吉島組による劇がユニーク賞をいただきました。また「第1回 話してみよう韓国語 福岡大会」では、中原・井出組が優秀賞を受賞しました。現状に満足することなく、スキルアップを目標に、これからも様々な大会へ挑戦していこうと思います。(伊藤)

YPUプロジェクト「ぶちええじゃん ブログ型山口マップ韓国語版」

韓国語学研究室では、2009年度研究活動課題として「ぶちええじゃん ブログ型山口マップ韓国語版」を作成しています。山口県を韓国語で紹介するブログを作ることで、山口を訪れる韓国人観光客が増え、更に地域貢献に繋がると考えました。この活動を通して、山口の魅力も多くの人に伝えられたと同時に、私たち自身も山口の特産物や行事など、山口の良さを再確認できました。そして、一人一人が責任感を持ち、互いに助け合うことの大切さを学びました。今後もこの活動で築いた繋がりを大切にしていきたいと思っています。

ブログのURLは、<http://buchikorea.blog93.fc2.com/>です。皆さんからのコメントをお待ちしています。皆さんがおすすめしたいことがあれば教えてください!!(佐原)



★韓国クイズ★

今回はカルビについてのクイズです。

Q. 私たちにお馴染み! 焼肉のカルビ♪
では韓国語で갈비の意味は何でしょう?

①あばら骨



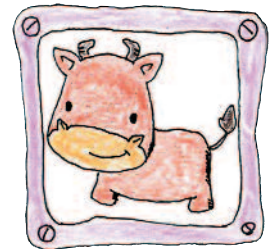
②豚



③胃



④牛



ヒント♪ 韓国では痩せている人に対して、갈비という言葉を使うこともあります。

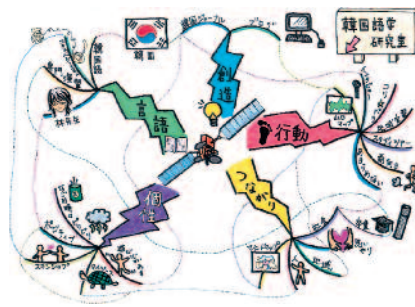
韓国語コースゼミ活動マップ

韓国社会論研究室(金恵媛先生)



韓国社会論研究室は、多世代コミュニケーションの場として、人との繋がりを大切にしています。いろいろな世代の人たちと意見を交換し合うことで、日々新しい発見があります。今後も世界一の金ゼミを目指します!!
<http://blog.goo.ne.jp/yju-korea>

韓国語学研究室(林炫情先生)



韓国語学研究室では、中央にある人工衛星から広がる「言語力」「創造力」「行動力」「個性」を基盤とし、すべてのことに「つながり」を保つことができるように、今後も色々なことに取り組んでいきたいと思っています。
<http://hjljm.yju.jp>

2009年に韓国・日本留学した人からの一言



青柳満人

私の留学は漢字で表すと「縁」です。留学当初は、語学力や経験不足の面で不安でしたが、様々な人との交流を持ち、関係を築くことで、その不安もなくなりました。これからも「縁」を大切にします。



藤村菜美

1年間の交換留学が終わり、改めて時間の早さに驚いています。今回の留学で私は、出会いの大切さに気がきました。韓国で出会った全ての人に感謝し、これからの人生に留学で学んだことを生かしていきたいです。



アン・ジンソル

あっという間の1年でしたが、初めての日本での生活は私に大切なことを教えてくれました。山口が教えてくれた温かい思い出や沢山の友達のことを一生忘れず、今後も日本語の勉強を頑張りたいと思います。



キム・セハ

新年を迎えて、私の留学生活も少なくなってきました。昨年の春から冬にかけて色んなことがありました。特に夏の伝統的な祭りや、冬のこたつでした鍋パーティー、初めて行った初詣は全部忘れない思い出です。

2010年に韓国留学する人からの一言



原田有紀子

たくさん韓国語や韓国文化に触れ、さまざまな経験をしたいです。あの時挑戦しておけばよかったと後悔しないように、積極的に行動し、時間を大切に充実した留学生活を送りたいです。友達もたくさん作りたいです。



秋元佑子

私が韓国への留学を決意したのは語学力の向上だけでなく、自分の可能性を試したいという冒険心、そして絶えず持ち続けていた好奇心からです。一日一日を大切に、自分らしさを忘れない留学生活にしたいです。

卒業生の今



沖部笑美(2007年度卒業・福岡の結婚式場に就職)

私は現在、福岡の結婚式場でウエディングプランナーをしています。結婚式場が福岡空港からとても近いということもあり、海外にお住まいの方や国際恋愛の方に我社で式を挙げて頂く機会が多いです。韓国語とは無縁かなと思っていましたが、入社したばかりの頃、韓国人と日本人のカップルが式を挙げられ、通訳を担当させて頂くこともありました。この4月には、なんと偶然にも私の韓国の友人の友人が我社で式を挙げられる事となり、私がプランナー担当をさせて頂いています!忙しい毎日ですが、こんなに責任とやりがいのある仕事に携わることができたのは、韓国留学や大学で学んだ数々の経験のおかげです。語学は、一つ覚えるだけで色んな所で自分と誰かを繋げてくれること間違いなしですよ!



六車陽子(2008年度卒業・山口の旅行会社に就職)

私は現在、旅行会社で企画業務を担当し、時々添乗員もしています。添乗員として韓国にも2度行きました。徐々に韓国語が使える機会だったので、ガイドさんやお店の方に韓国語で話しかけてみると、「韓国語できるの!?これサービス!」と特別に試食やお土産をくれたり、地元の通な情報を教えてくれました。また日々の電話受付でも、韓国旅行に不安を抱いている方に対し、不安を解消してご参加頂けるようにお手伝いをしています。こうして大学で身につけた力を活かしながら、仕事ができることを本当にうれしく思っています。これからも「韓国ならあいつに聞け!」と言われるよう勉強を続けていきたいです!

編集部より



『韓国ジャーナル』は、山口県立大学や地域の方々から韓国文化や韓国人についてより幅広く知っていただくことを目的に、No.1~No.5まで発行してきましたが、紙ベースでの発行は今回をもって終了することになりました。この『韓国ジャーナル』を通して、私たち自身、新たな韓国の文化・歴史・情報を知ることはもちろん、みんなでひとつのものを企画・実行する難しさも学びました。また地域の方からの反響もたくさんあって、自分たちの活動に自信を持つことができました。そして最終号となる本誌では、私たちの卒業論文の成果を、記事として取り上げることができたので、大変嬉しく思っています。今後は、編集委員一人一人がゼミや授業で取り組んでいる課題を、Web(韓国語学研究室のHP)上にて連載していく予定です。さらに充実した内容で情報発信していくと考えていますので、是非ご覧ください!今まで本当にありがとうございました。

クイズの答え

A.①

日本でカルビという骨なし肉ですよ。でも韓国でカルビを注文すると、一般的に骨付き肉が出てきます!(森田)